

第1学年 国語科学習指導案

1 日時 平成28年 月 日 ()

2 場所 1年2組教室

3 単元名 くらべてよもう 「じどう車くらべ」

4 単元の見目

知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、「自動車を比べる」という題材のもとで、「問い+答え+答え+答え」という列挙型の構成になっている説明文である。また、乗り物は、児童にとって身近なものであり、興味・関心を示す題材であるため、意欲をもって学習することができる。

本文には、自動車の具体例をもとに「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」といった具体的な問いが二つあり、「そのために〇〇になっている。」という文型で構成されている。「そのため」という言葉で文同士をつなげる手段を知ること、物事を説明するときの理由や、条件を示す言葉の使い方について、理解を深めていきたい。

単元では、列挙型の説明文である。自動車を比べるにあたって、「仕事」「つくり」という観点が得られることによって、はしご車であれば、「かごがついている」「足がついている」「タイヤが6つある」など、いくつでも挙げるのが可能である。二つの観点と、「そのため」でつながっていることを、活動を通して認識させることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく元気な児童が多い。活発に意見交流を行うなど、学習に対して大変意欲的である反面、思いついたことや、考えたことをそのまま伝えていく児童が多いため、会話が支離滅裂になってしまう姿も見られる。また、教師の発問に対して、整理ができず、自分の思いをもてないことから正答できないこともある。

説明的文章については、1学期に「くちばし」を通じて1つ1つの言葉を挿絵と対応させて考えさせていった。はじめは言葉と挿絵が繋がらず、困惑する児童もいたが、同じような課題に繰り返し取り組んだり、具体的な教材を活用したりという中で、「問い」と「答え」の関係に気付くことができた。

また、相手への気持ちを正しく伝えるために、日常的に「〇〇だから～」という形で説明をするようにしている。今後も、繰り返しの課題を理解し、自分の思いを正しく伝えられるようにしていきたい。

視聴覚機器の活用については、これまで教師が率先して機器を活用してきた。算数では、ノートに書いたものを書画カメラで写したり、国語では、プロジェクターで天井に絵を写して、視覚的にインパクトを加え、活用してきた。日頃より、書画カメラやデジタルカメラなどを使ってきたため、児童は授業の中で、ICT機器を自然に受け入れることができる。また、児童自ら「書画カメラで大きく見せようよ。」と意見が出ることもある。

(3) 指導観

◎学習活動について

本単元では、説明文を読み取り、そこで学んだ文章の形式を生かして、自分でも好きな自動車を説明する文を書く学習をしていく。

導入段階では、「好きな自動車」や「よく見る自動車」について考えたり、教科書の挿絵を見たりすることで、自動車図鑑を作りたいという意欲を高めていく。

単元前半では、教科書に出てくる自動車の具体例を元に、「しごと」と「つくり」を捉え、「そのため」という言葉つくりのワークシートにまとめていく。毎時間「しごと」と「つくり」に着目させていくことで、児童

が説明型の文章の書き方を理解できるようにしていく。

単元後半では、前半が学習した説明文の文章をもとに、図鑑や絵本、映像資料から、自分の身のまわりの自動車に視野を広げ、自分で選んだ自動車についての「しごと」と「つくり」を書いていく。できあがった文章を友だちと共有することで、多様な表現のおもしろさを感じさせていきたい。

◎視聴覚・情報機器活用について

本単元においては、教科書の挿絵を活用するだけではなく、ICT教材を活用することで、児童が「自動車のつくりや動き、働き」について実感をもって理解を深めていけるようにしていく。プロジェクターで自動車を大きく写したり、本物の自動車の写真を大きく写したりすることで、児童が自動車の「つくりと動き」を書くことに対して、興味関心をもって学習していくことができると考える。また、実際に動いている様子を映像で視聴することで、「はしごは伸びるんだ。」、「大きな足が出てくるんだ。」、「水が出てくるんだ。」など、自動車のつくりについての理解を深め、つくりと動きの関係について実感をもって捉えることができると考える。それによって、写真だけではわからなかったことに気づき、児童それぞれの多様な表現に繋げることができると考える。

6 単元目標

- ◎知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から、大事な言葉や文を書き抜くことができる。
- 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。
- ・長音・拗音。促音などの表記や、句読点を正しく使って書くことができる。

7 単元の評価基準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
自動車について説明されている絵本や図鑑、文章などを読み、進んで調べようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序を考えながら読み、内容の大体を理解している。 ・本や文章の中から、必要な言葉や文を書き抜いている。 ・知識を得るために、本や文章を選んで読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そのために」を使って文と文をつなぎ、自動車の仕事と作りを説明する文章を書いている。 ・書いた文章を友だちと読み合い、よいところについて感想を伝え合っている。 	長音・拗音・促音などの表記や、句読点を適切に用いている。

8 指導計画 (全12時間扱い)

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点(・)と評価(◇)
第一次	1	○どんな自動車を知っているかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・P28の挿絵を見ながら、知っている自動車を想起させる。 ◇自動車について知っていることを聞いたり、話したりしようとしている。
	2	○図鑑と自動車カードの例を見て、図鑑づくりの意欲を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑について説明し、P35のカードに何が書かれているかに気付かせる。 ◇図鑑作りに関心を持ち、自動車に関する本や文章を進んで読もうとしている。
	3	○「じどう車くらべ」の範読を聞き、学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車図鑑を作るという学習の見通し

		を設定する。	を持たせる ◇問いや答えが何かを読み取ろうとしている。
第二次	4	○「しごと」と「つくり」について文章を見て、それぞれ考える。(バス)	・働くバスの動画をみせて、具体的に考えられるようにさせる。 ◇バスの「しごと」と「つくり」を書き抜いている。
	5	○「しごと」と「つくり」について文章を見て、それぞれ考える。(トラック)	・働くトラックの動画をみせて、具体的に考えられるようにさせる。 ◇トラックの「しごと」と「つくり」を書き抜いている。
	6	○「しごと」と「つくり」について文章を見て、それぞれ考える。(クレーン車)	・働くクレーン車の動画をみせて、具体的に考えられるようにさせる。 ◇クレーン車の「しごと」と「つくり」を書き抜いている。
	7	○「しごと」と「つくり」について文章を見て、それぞれ考えたことをプリントに書く。	・文章から課題を読み取れるように、前時までの学習を想起させ取り組ませる。 ◇それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を正しく書き抜いている。
第三次	8 (本時)	○はしご車の「しごと」と「つくり」を考えて、書く。	・動画をみて、実際の映像の中から、「しごと」と「つくり」について考えさせる。 ◇はしご車の説明を「しごと」と「つくり」に分けて、「そのため」を使って書いている。
	9	○自動車の図鑑から、自分が書きたい自動車を選んで読む。	・さまざまな種類の本をそろえておく。 ◇自動車について説明されている絵本や図鑑を読み、進んで調べようとしている。
	10	○図鑑から選んだ自動車の図鑑を書く。	・P32と同じ形式でワークシートを用意する。 ◇調べるために自動車について説明されている本を読んでいる。
	11	○自動車の図鑑を完成させる。	・みんなで読み合い、感想をカードに書いて渡す。 ◇調べた自動車について、「しごと」と「つくり」を、そのためを使って書いている。
	12	○学習を振り返る。	・完成した図鑑をもとに、これまでの学習を振り返る。 ◇調べた自動車について、「しごと」と「つくり」を、そのためを使って書いている。

9 本時の指導（8／12）

(1) 本時の目標

挿絵や映像、自分の知識などを基に、はしご車の「しごと」と、「つくり」を捉えて書くことができる。

(準備：プロジェクター、ノートPC、デジタル教科書、スピーカー)

(2) 展開

	学習活動	○指導上の留意点 ☆視聴覚機器活用 ◇評価
導入 10分	<p>1 黒板に映し出された映像をみて、何について学習するのか連想する。 火を見たとき→ ・消防車だ。 サイレンを聞いたとき→ ・救急車だ。</p> <p>2 「はしご車」について学習することを確認する。</p>	<p>○「火」→「サイレン」→「はしご車」といった映像や音を提示することで、児童の興味関心を高める。 ☆映像をプロジェクターで投影する。</p> <p>○今までの課題との相違点を考えさせ、本時の課題を明確にする。</p>
「しごと」と「つくり」をわけて、「はしご車」のせつめいをかこう。		
展開 30分	<p>3 「しごと」と「つくり」について考える。 ◎今までの学習から考える。 ・バス ・トラック ・クレーン車</p> <p>◎黒板に写っている「はしご車」を見て、はしご車について、わかることを発表する。「しごと」→「つくり」 ・タイヤがたくさんあるよ。 ・大きな車みただよ。 ・上に大きなものがのっているよ。</p> <p>◎「はしご車」が実際に動いている映像を視聴し、さらにわかったことをワークシートに書き込む。 ・はしごの上にかごがついているよ。 ・足は動くんだね。</p> <p>4 はしご車は、どんなときに働くのか考えて発表する。 ・高いところの人を助けるときに働きます。 ・火事の時に働くよ。 ・人を助けるよ。</p> <p>5 前時までの文型を生かし、はしご車を説明する文を考え、ワークシートに書く。 ①しごと ・たかいところにいる人をたすけるしごとをします。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">そのために</p> <p>②どんなつくり ・大きなはしごがあります。 ・はしごの上にかごがついています。 ・ささえるためにじょうぶなあしがついています。</p>	<p>○前時までの学習で、「しごと」と「つくり」について学習してきたことを想起させる。</p> <p>○黒板の模造紙に線を引いて児童の発言を書いていく児童自身が考えを整理するための材料を作っていく</p> <p>○ワークシート配付 ○映像は無音の状態で流し、目からの情報のみに集中させる。 ☆デジタル教科書に入っている映像をPCからプロジェクターに投影する。 ○児童の様子を見て、困っているようであれば、再度音を出した状態で映像を流し、目と耳からの情報で考えさせる。</p> <p>○はしご車だけにある「つくり」を考え、「しごと」との関連性に気づかせる。 ○黒板とワークシートが同じ形になるようにし、児童が考えを整理しやすくする。</p> <p>○「～は、○○しごとをしています。」のような文型や、「そのために」「～のように」などの語句を活用するようにする。 ◇はしご車の説明を「しごと」と「つくり」に分けて書くことができている。(ワークシート)</p>
まとめ 5分	<p>6 ワークシートに書いた「はしご車」の「しごと」と「つくり」を全体に発表する。</p> <p>7 次の時間は、実際に図鑑などから自動車を選んで、図鑑を作っていくという見通しをもつ。</p>	<p>○友だちが自分とは違った発表をしても、それを受け止め、つなげていくよう声をかける。 ○前で指さしながら発表させ、視覚的にわかりやすく、関心の高まる発表につなげる。</p>

